



月を愛でる

今年の中秋の名月は9月21日。日本では古代より月を愛でる風習があったそうですが、中国の仲秋節が伝わり、平安時代貴族などの間で月を愛で“宴”が催されたのがお月見のはじまりです。
地名にもその名残が見えるように、日本人の心は昔から月を特別なものと感じているのでしょう。

お月見

大覚寺「観月の夕べ」

「観月の夕べ」は嵯峨天皇が大沢池にて、中秋の名月に舟を浮かべ、文化人・貴族の方々と遊ばれたことから始まりました。
龍頭鰻首舟が優雅に浮かび、空と水面に映る月を楽しめます。



下鴨神社「名月管絃祭」



平安時代以来の伝統を持っている管絃祭では、ススキの穂を飾り、かがり火がたかれた舞台で舞楽が演じられます。庭にはお茶席が設けられ名月を鑑賞できます。

月の神

月読神社（つきよみじんじや）

松尾大社の南にある神社で、つきよみのみこと月読尊が御祭神です。月読尊は月神で、太陽神である天照大神の弟神にあたります。今では安産の神として信仰されています。
ちなみに祇園祭の月鉾にも月読尊がまつられています。



月の橋

渡月橋



渡月橋は、嵯峨野と嵐山を隔てて流れる桂川に架かる橋。鎌倉時代に亀山上皇が、橋の上空を移動していく月を眺めて「くまなき月の渡るに似る」と感想を述べたことから渡月橋と名付けられたそうです。

観月橋

観月橋は、伏見区の宇治川に架かる橋。明治初めの再建後、観月橋と命名されました。豊臣秀吉が指月山月橋院で催したといわれる月見の宴が名称の由来です。



月見団子も
お忘れなく





こんなお悩みのある方へ

- ☒ 本業の収益力がなくなり「何か新しいことを始めなければならない」という危機感はあるが、どうやって進めていけばいいかわからない。
- ☒ これからの時代を見据えて、自社がどういったビジネスに取り組めば良いのかかわからない。
- ☒ ビジネスアイデアはあるが、それを具体的なビジネスモデルや事業計画書への落とし込み方がわからない。
- ☒ 注目されている事業再構築補助金を活用したい。補助金採択率の高い「経営革新等認定支援機関」を探している。

●不況下は新規事業のチャンス（コロナ禍における事業機会）

新型コロナウイルスが出現してから今後の経営や事業の展望が描けず、中小企業経営者の悲鳴も聞かれるところ。このような不況下では、人々の行動パターンの変化や企業のコストカットなどに伴い、新たな課題やニーズが生まれやすい傾向にあります。つまり新規事業をスタートさせるにはチャンスです。

新規事業は、3つのゲート(チェックポイント)を通過して、事業が立ち上がっていきます。

ゲート1 自社に優位性がありそうなビジネスアイデアがあるか

ゲート2 そのアイデアをビジネスモデル化でき、儲かる見込みが立っているか？

ゲート3 資金調達(補助金含め)について、緻密な事業計画書に落とし込めているか？

くわしくは中小企業の新事業のつくり方塾サイトをご覧ください

⇒ <https://new-business.chusho-keiei.jp/>



新事業のつくり方に関する最新コラム

2021年 8月10日

【事業再構築補助金】要件が緩和されて、採択率UP!? 第3回公募の主な変更点を分かりやすく解説
(<https://new-business.chusho-keiei.jp/column/182/>)

7月30日、事業再構築補助金の第3回公募がはじまりました。

大きな方向性として、要件が緩和され、ハードルが下がった印象を受けています。

第3回公募では、これまでの2回の公募と大きな変更点がいくつかありました。

公募要領などの各種資料も更新されて公開されているので、申請前には必ず目を通してください。

本コラムでは、主な変更点を中心に第3回公募のポイントを出来るだけ分かりやすく解説したいと思います。...

(つづきはホームページで)

<あとがき>

旧暦8月15日の月が「中秋の名月」ですが、中秋の夜に雲などで月が隠れて見えないことを「無月(むげつ)」、中秋の晩に雨が降ることを「雨月(うげつ)」と呼ぶそうです。たとえ月が見えなくても、これならなんとなく風情がありますね。(木下)

